

公認会計士科研究室

研究室の紹介

どんな研究室か

公認会計士科研究室は、公認会計士試験の合格を目標とする研究室です。当研究室は、公認会計士試験の合格に向けて受験勉強を行っている学生に独自の講座や快適な学習環境を提供します。

恒常的な講座は行わず、主に試験勉強中の学生の勉強のサポートを行います。

室生のほとんどが大学から簿記や公認会計士の勉強を始め、公認会計士試験に合格して行きます。

また、室生の中には公認会計士に限らず、関連する会計資格（税理士、日商簿記1級・2級）を目指している者もいます。

入室説明会

4月上旬に各研究室合同の説明会を行い、4月中旬に本研究室の説明会を行います。

そこで、公認会計士とはどんな仕事をするのか、また公認会計士を目指すうえでの学習プランの相談や、会計士試験合格者をお招きしての合格体験談報告会などを行う予定です。

公認会計士になるための受験勉強は、簿記検定の学習からスタートすることが一般的です。そして簿記の学習が進んだら、本格的に公認会計士試験のための学習を始めるとよいでしょう。法学部には課外講座として日商簿記検定2級を獲得するための講座があります。そこで、まずは課外講座を活用して、簿記の学習をスタートさせましょう。なお、すでに専門学校に通っているなど、公認会計士を目指す意思が明確にある学生には、学習を始めたばかりでも、プレ室生登録をして頂くことで研究室内の開放スペースを利用した自習環境を提供します。

入室条件

本学の学生、院生、卒業生で、簿記・会計の資格を目指しているものであれば、資格取得の有無を問わず、入室することができます。ただし、正室生となるには日商2級程度までの学習経験と学習を継続する意思が必要となります。正室生には固定席および個人ロッカーが貸与されます。

入室試験

基本的に筆記テストは実施せず、面接試験により可否を判定します。

その他入室に関して相談したい方は、下記問い合わせ先までお気軽にメールをください。

公認会計士科研究室の活動(近年の実績)

夏季合宿

平成28年度は、担当教員による指導の下、会計学の理論および計算の基礎力を高めるための合宿を実施しました。

合格実績

公認会計士試験	平成26年度	3名
(論文式合格者)	平成27年度	1名
	平成28年度	2名
日商簿記検定	平成27年度	2級 4名
	平成28年度	1級 2名 2級 3名

研究室設備など

研究室所在地

5号館6階 固定席・自由席 36席
ロッカー 36個 ロッカー等の割当は役職が決定

問い合わせ

以下のいずれかに問い合わせてください。

- ・担当教員：小阪敬志 E-mail：kosaka.takashi@nihon-u.ac.jp
- ・研究室 E-mail：cpa_kenkyuusitu_nu@yahoo.co.jp
- ・10号館2階エクステンションセンター

公認会計士について

資格内容

公認会計士は企業の財務諸表と内部統制の監査を独占的に行う会計専門職です。特に、財務諸表監査は、企業経営者が経営状態を示すために作成した財務諸表が、企業の経営実態を適正に表示したものであるか否かを検証し、財務諸表の信頼性の程度を保証するために実施されます。

活躍の場

監査業務を行う監査法人で活躍するのが大半です。監査業務の提供先は上場企業が中心であり、資本市場の信用性を支える非常に大きな役割が期待されるとともに、活躍の場も極めて広範に及びます。

また、監査のフィールドに限らず、会計専門職としての知識を活かして経営コンサルティングを行ったり、企業内部で経理や財務関係の業務に携わっていくといった形で活躍している公認会計士もいます。

試験難易度

国家資格試験の中でも難関と位置づけられています。本研究室では毎年合格者を輩出しており、2016年度の論文式試験の合格者は2名（2015年度1名、2014年度3名、2013年度2名）でした。

○2016年度公認会計士試験情報（参考）

- ・願書提出者数 10,256名（前年度は10,180名）
- ・論文式試験受験者数 3,138名（前年度は3,086名）
- ・論文式試験合格者数 1,108名 合格率10.8%（前年度は10.3%）
- ・合格者の平均年齢 26.2歳（前年度は27.1歳）
- ・合格者の性別 男性 全体の約79%
女性 全体の約21%
- ・合格者の学歴 大学卒業以上 全体の約56%
- ・合格者の職業 学生・専門学校生 全体の約72%

※以上から、合格者の多くは遅くとも大学卒業から3年以内には合格していると分析できます。実際、多くの受験者は大学在学中に学習を始め、早い者は在学中に合格していきます。

公認会計士試験の内容

所轄機関

金融庁：「公認会計士・監査審査会」

試験内容

短答式試験（前年の12月中旬と試験年の5月下旬の年2回実施）と論文式試験（試験年の8月下旬）の2段階選抜方式で実施されます。

短答式試験はマークシート方式による択一式試験、論文式試験は筆記式試験となります。

試験科目

- ・短答式試験（全4科目）
財務会計論、管理会計論、監査論、企業法（すべて必須科目）
 - ・論文式試験（全5科目）
（必須科目）会計学、監査論、企業法、租税法
（選択科目）経営学、経済学、民法、統計学 から1科目選択
- ※各科目の具体的内容は後述。

合格までの流れ

まず短答式試験に合格する必要があります（年2回実施のどちらかに合格すればよい）。短答式試験は4科目の総合得点によって合否が判定されます（合格ラインは総得点の65%~70%が目安です）。

短答式試験合格者が、論文式試験を受験できます。短答式試験の合格には有効期間があり、1年のうちに短答式および論文式の両試験を合格する必要はなく、段階的に合格していくという方法も可能です。

論文式試験の合格には総得点の52%程度が目安ですが、論文式試験では一括合格の他に、科目単位での合格もできます。その場合には、翌年以降の論文式試験で合格科目の受験が免除され（最長2年まで）、未合格科目のみでの受験が可能です。

試験科目紹介

財務会計論 (必須科目)

計算分野と理論分野に分かれます。計算はいわゆる商業簿記です。簿記といえば日商簿記検定がよく知られていますが、日商簿記1級の商業簿記よりも範囲が広くレベルが高いです。また、理論は日商簿記1級という会計学にあたり、やはり範囲・レベルともに1級を上回ります。

管理会計論 (必須科目)

計算分野と理論分野に分かれ、日商1級という工業簿記・原価計算にあたります。財務会計論同様、範囲・レベルともに1級を上回ります。

財務会計論と管理会計論は公認会計士試験の最も重要な科目であり、論文式試験では両科目が合わさって「会計学」となります。

監査論 (必須科目)

公認会計士の独占業務である監査について学びます。公認会計士として監査を知っておくことは重要であるため、監査の総論や方法論などを学びます。理論科目です。

企業法 (必須科目)

企業法では、会社法・商法・金融商品取引法を学びます。公認会計士の業務の性格上、会社や資本市場に関する法律の知識は非常に重要です。なお、司法試験科目の会社法よりは易しいものとなります。

租税法 (必須科目:論文式試験のみ)

租税法は計算と理論に分かれ、法人税法・所得税法・消費税法を学びます。会計と税務は密接に関係している上に、会計の専門家であるという社会からの期待に応えるべく、租税法も必須科目とされています。なお、税理士試験科目よりは学ぶ範囲が狭くなっています。

選択科目全般

以下に示した選択科目のうち、経営学以外の科目は本当に得意な人しか選択しないため、受験生のレベルが高くなりがちです。科目選択は慎重に行った方がいいでしょう。

経営学 (選択科目:論文式試験のみ)

組織論・戦略論・ファイナンス論といった分野からなります。組織論・戦略論は理論で、ファイナンス論には理論と計算があります。選択科目の中で一番学習量が少ないだけでなく、財務会計論や管理会計論ともリンクしやすい内容が多いことから、大半の受験生は経営学を選びます。

経済学 (選択科目:論文式試験のみ)

ミクロ経済学・マクロ経済学を学びます。理論と計算があり、最近では計算が中心となっています。数学的素養がある程度求められ、学習量も選択科目の中では多いです。

統計学 (選択科目:論文式試験のみ)

記述統計とデータ解析、確率、推測統計、相関・回帰分析の基礎などを学びます。学習量は経済学よりは多くはありませんが数学的素養がかなり必要となります。

民法 (選択科目:論文式試験のみ)

民法は親族・相続以外の範囲を学びます。司法試験などの試験科目と比べて問題が易しく基本的ですが、しかし他の選択科目と比べれば学習量はかなり多くなってしまいます。

研究室担当教員, 研究室OB・OG

担当教員

川又 祐 (教授) 小阪 敬志 (専任講師)

研究室OB・OG

(在学時の学科と
卒業年次を併記)

西田 真也 政経7卒	樋口 俊輔 経法10卒	名手 芳隆 法律14卒
山本 恭裕 法律14卒	畑村 国明 経法17卒	高橋 正嗣 経法18卒
種田 翔太 経法18卒	門田 功 政経19卒	佐藤 晃一 経法19卒
森 秀樹 経法19卒	宇都宮 有 管行20卒	行之内彰文 経法20卒
鈴木 信成 管行20卒	泰地 雄也 経法20卒	齋藤 和也 管行21卒
古矢 恵美 経法21卒	森 康尋 法律21卒	佐藤 直樹 経法22卒
佐藤美香子 経法22卒	金森 俊亮 経済学部22卒	松本 貴之 経法23卒
佐藤 瞬也 経法24卒	渡邊 成彦 経法24卒	山下 能央 経法26卒
横山 裕昭 経法26卒	奥山 真充 商学部26卒	山田 義晃 商学部26卒
川畑 優太 法律27卒	草苺 雄大 経法27卒	小島 祥人 公共27卒

(公認会計士試験合格者)

西村 侯政 経法20卒	種田 有紀 政経18卒	諸星ひとみ 経法19卒
渡辺 琴乃 経法23卒		

(税理士試験合格者および科目合格者)

なお, 卒業年次は元号で表記。

研究室生(2017年4月時点)

正室生

卒業生 5名 4年生 4名 3年生 5名 2年生 7名 計21名

研究室生特典

本研究室の室生は, 会計専修学校の御協力により各種割引特典などを受けることができます。詳しくはお問い合わせください。

◆公認会計士試験合格者からのメッセージ

現役合格者体験談①

メンタル

小島 祥人 (平成28年公認会計士試験合格)
(平成27年法学部公共政策学科卒業)
(平成29年より新日本有限責任監査法人にて勤務)



はじめまして、小島祥人です！

合格までの勉強期間は大学1年生の7月から卒業した次の年の8月、つまり約5年間です。勉強期間としては平均から少し長いくらいです。ただその分私なりに違った視点で語れることはたくさんあります！あなたの大学生生活プランの1つになると嬉しいです。

<研究室について>

まず私が伝えたい事は、研究室という存在は「大学生生活勉強漬けになるのは嫌だ。」と思っている方にもおすすめできることを忘れないで下さい。勉強熱心であり将来を見据えた友達を作りに来て下さい！！研究室には公認会計士試験のために大学生生活を試験だけに注いでいる人のみならず会計士までは目指していないが簿記をやっている人など様々です。

<研究室を勧められる理由>

- ①自分の空間を作ることが出来る。
- ②将来をしっかりと考えた仲間に出会える。

大まかにこの2点が挙げられます。研究室ではいつでも自習できるスペースがあり、テキストなど自分の荷物を入れるロッカーがあります。ロッカーには簿記や会計士の教材のみならず大学の講義で使用する教材も入れることができます。後に自分専用の自習机がもらえます。つまり、自分の部屋が研究室にあるという感覚です。また、将来を見据え行動に移している仲間に出会って下さい。会計士を目指した場合には試験を1人で乗り切れるものではありません。受験仲間と切磋琢磨してやっと乗り切れるものです。そういう意味でも研究室の存在はとても大きいです。

<私が伝えたい事>

私は試験に受かった今でも夢はまだありません。これから自分の夢を見つけます。それは会計士を目指そうとした理由としても、『とりあえず何か大きな目標に向かいたい』という思いから見つけた物が会計士という資格でした。大学1年生の時課外講座で日商簿記検定2級講座を受講し合格、その後講師の方からの勧めもあり、簿記の延長であり医者、弁護士に並ぶ三大国家資格という公認会計士というものに初めて出会いました。私は“とりあえず”という感覚で勉強を始めました。驚く事に、会計士試験に受かった仲間のほとんどが、“簿記をやっていたから”とか“給料が良いから”とか“附属校出身で何かに挑戦したかったから”とかなんとなくやり始めた結果であることが多いです。そうです。何かに挑戦する理由なんてなんでもいいのです。何か資格試験に挑むことに悩む人のほとんどが大学生らしい生活を捨てなくてはいけないと考える人が多いです。確かに勉強し始めたら犠牲になってしまうことはあります。しかし、どっちも取ってみたいいいのではないのでしょうか。とりあえず、やりたいこと興味があること一つ一つを行動に移すこと。これに尽きると思います。行動に移すことによって自分の中で本当に大切なものが見えてくるはずです。正直、大学生活で何をやろうと私は構いません。10年後、20年後、この時期に「〇〇しとけばよかったな」と言うことがないように今を過ごせば何してもいいと思います。人生で後悔したくないですよ！その過程の1つに研究室という場を上手く活用させて頂くことを心の底からお勧めします。あなたの大学生生活をより良いものにしてけると確信しています。最後に、試験勉強に苦しんでいる方、大丈夫です。今苦しいと感じられている事は合格に必要な要素であることに気付いてください。真剣に取り組んでない人は苦しきなんて感じません。あなたはしっかりと合格の道筋を歩んでいます。会計士試験はもうメンタルの試験ですよ。それは自分自身が一番お気づきだと思います。勉強方法も大切ですが、何よりも考え方に重きを置いてみて下さい。そうすると案外難しく考え過ぎていることに気付くと思います。また、もちろん早く受かる人もいれば長くかかる人もいます。大事なこと、譲れないことは人それぞれあります。マイペースに自分を見失わずに自分がやりたいことに挑戦し続けて下さい。そして、自分を支えてくれる両親、応援してくれる友人がいることも忘れないで下さい。応援しています!!!

公認会計士科研究室の素晴らしさ

川畑 優太 (平成27年公認会計士試験合格)
(平成27年3月法学部法律学科卒業)
(平成28年より有限責任監査法人トーマツにて勤務)



今、これを見ている方はきっと、公認会計士を目指そうか迷われている方だと思います。そこで、そのような方に向けて僣越ながら、公認会計士試験について個人的に感じたことを述べさせて頂きたいと思います。少しでも参考にして頂けたら幸いです。

私が公認会計士を目指すまでの経緯は大学2年生のとき、大学内の簿記講座で簿記3級を目指していました。周りの受講生のほとんどが3級に合格していましたが、私は自分なりに頑張ったにも関わらず、落ちてしまいました。そのとき、私には簿記の才能が無いことを実感しました。また、要領が悪く、勉強が苦手であることも痛感しました。ですが、講座自体が簿記2級を目指すカリキュラムだったので、2級の合格に向けて頑張りました。すると、問題集を解き続けるうちに簿記が面白くなっていきました。その結果、最初はあまり、簿記が好きではありませんでしたが、段々と好きになっていきました。そして、簿記2級に合格しました。そして、好きな簿記、会計の専門家である公認会計士を目指したいと考え、公認会計士試験に挑戦し、合格することができました。このように簿記3級に落ちても、公認会計士試験に合格できたので、個人的には簿記の才能がなくても、要領が悪く勉強が苦手でも、努力の仕方次第では公認会計士試験には合格できると思っています。確かに、頭が元から良い人は有利だと思いますが、努力の仕方次第でその人たちに勝てる国家試験だと思います。ここで、「努力の仕方」と書いているのは、公認会計士試験はただ単にやみくもに努力しても合格することは難しく、努力の仕方が重要だと考えるからです。その努力の仕方については後述する大学や予備校の先生方や研究室の先輩方に聞くことで知ることができ、努力の仕方を変えていくことで、合格することができたと思っています。

ただ、簿記が嫌いな方は公認会計士試験に合格することは難しいと思います。その理由は試験科目のなかで、簿記の比重が極めて高いからです。したがって、現在、公認会計士試験を目指そうか迷われている方は簿記3、2級を目指してみて、簿記との相性を判断してから、公認会計士試験に挑まれることをお勧めします。

日本大学法学部で公認会計士を目指す場合、研究室に所属することをお勧めします。その理由は勉強するための環境が整っているからです。日本大学法学部の研究室では勉強するための机が貸与されたり、先輩から受験勉強の仕方を教わることができたり、一緒に受験勉強している仲間と切磋琢磨することができます。私は個人的にはこの公認会計士試験は、自分ひとりの力では合格することはできないと考えています。大学や予備校の先生方や研究室の先輩方、そして一緒に受験勉強している仲間などの様々な人達に支えられたからこそ、合格することができたと思っています。もし、この支えがなかったら、合格することはできなかつたと本当に思います。

このように研究室に所属すれば、合格するために必要な環境は手に入るの、あとはあなたの努力さえあれば、この公認会計士試験には合格できると思います。

公認会計士を目指そうか迷われている方は是非、研究室に相談にいらして下さい。研究室生一同、心からお待ちしております。

サクセス・ストーリー

山下 能央 (平成26年公認会計士試験合格)
(平成26年3月法学部経営法学科卒業)



今、私は公認会計士試験合格祝賀会会場入り口に立っています。そうです、2014年度の公認会計士試験に合格し、この頂まで辿り着きました。この体験記を読んでいるということは会計士試験挑戦を決意した人、悩んでいる人、また現在受験生など様々な方々だと思います。従って、私の体験談が少しでも皆さんのお役に立てば幸いです。

私が初めて電卓に触れたのは大学3年の頃でした。それまでは公認会計士という資格はおろか、簿記がどういうものなのかも知りませんでした。大学1、2年の頃は、友人たちと食事に行ったり、サークル(バスケット)に行ったり、バイトをしたりしていました。昼夜逆転の生活が続き、学業の方は少々疎かになっていました。大学3年になると就活のことなど考えないといけないのですが、これまでそんな事を考えたことが無かったので改めてゆっくり考えてみました。大学4年間という時間は、自分で自由に組み立てることができ、まとまった時間を確保できる期間だと思ったので何か資格でも取ろうと思いました。そこで選んだ資格が公認会計士でした。この資格試験の難しさは知っていましたが、他の人も合格しているのだから私も合格できるだろうと思い受験勉強を始めました。私の公認会計士挑戦のきっかけは、意外とあっさりしていました。

そして、ここまでの話を読んでくれたあなたは公認会計士挑戦の決意をした方が現在勉強に行き詰っている受験生の方だと思います。私は予備校の試験でそれほど良い点数を取ったことが無いので、今回は公認会計士試験を突破する要領なりコツをいくつかアドバイスしたいと思います。まず、私が考える公認会計士試験の難しさは長期間にわたる精神状態の安定だと思います。多くの科目を毎日勉強しなければならない反面、人間なので気持ちの浮き沈みがあり勉強したくない日だってあると思います。そのバランスを保ち続けることはとても重要であり、困難でもあります。そこで休むことに対して罪悪感を持たないでほしいです。モチベーションが低いまま何日も勉強するよりも、1日しっかり休んで翌日からしっかり勉強した方が効果的だと思います。私も飲み会などよく参加して、リフレッシュしていました。次に、期限を決めて日々の勉強に励んでほしいです。次の試験がダメだったら公認会計士を諦めるくらいの気持ちで受験してもらいたいです。そして次の試験で合格出来なかったら、また次頑張ろう!と思うのではなく本当に諦めてください。キツイ言葉かもしれませんが、この方があなたの為になると思います。確かに不合格というのは、まだ公認会計士になる能力がないという意味でもありますが、逆に、その資格があなたには合っていないという意味でもあると思います。従って、より自分に合った資格なり仕事を探した方が今後の人生はより輝くと思います。ですから公認会計士を諦めなくて済むよう日々の勉強に励んでほしいです。以上が私からのアドバイスですが、少しでも参考になればと思います。

この公認会計士という資格はあなたの人生のみならず、社会においてもあなたを本場の主人公にさせる程の力を持っています。知り合いや友人の陰に隠れるのではなくあなたが主人公になってみませんか!? 私は一足先にこの公認会計士業界に入り、あなた方を待っています。そして一緒に仕事ができる日を心待ちしています。

……これから始まる公認会計士としての光り輝く人生の1歩目を踏み出すため、祝賀会会場入り口の扉をしっかりと自分の手で開けてください。

気合と努力、そして覚悟！！

横山 裕昭（平成25年公認会計士試験合格）
 （平成26年3月法学部経営法学科卒業）
 （平成26年4月有限責任あずさ監査法人勤務）



<公認会計士を目指した理由>

正直に書きましょう！！勉強期間は2年9カ月です。

私は、将来は経営に携わる仕事に就きたいと思い、そのため会社の仕組みを学ぶために簿記に興味を持ち1年生の時に学内の日商簿記2級講座を受講しました。サークルに夢中になりながらも11月の日商簿記2級に合格することができました。

私は、合格したことでもっと高度な会計知識を身につけたいと思い友達に相談しました。その結果、公認会計士を勧められました。私は、友達に相談するまでは公認会計士には全然興味がなく、言葉さえ聞いたことがありませんでした。

『公認会計士は会計のプロフェッショナル』そこで、公認会計士の魅力に惹かれ私は、1年生の12月から目指すことになりました。最初の一次試験は2年生の12月。一次試験に見事合格すれば3年生の8月に二次試験に挑戦！！

『簿記を学ぶことが面白かった』のが公認会計士を目指した1番の理由です。

<苦労と挫折>

私は公認会計士を目指した当初、超難関試験なんて知りませんでした。2級をすんなり合格したせいか、ちょっと勉強すれば公認会計士試験に1発合格できると思い込んでいました。そのため、サークルや飲み会、麻雀など悠々自適な大学生活を送りながら、予備校の授業に出席するだけで自主学習なんて一切やりませんでした。2年生の6月に模試が行われ、12回中10回0点を取りました。私は公認会計士試験を甘く見すぎていました。模試によって公認会計士試験の難しさを実感した私は、生活習慣を改め1日のほとんどを勉強時間に充てました。それから6か月間怒涛に勉強するも、初受験の一次試験は40%で完敗でした。（合格水準は70%）

そこから、様々な犠牲を覚悟の上、努力と気合で勉強した私は4年生の5月に一次試験を突破し、その勢いで8月に控える二次試験に合格することができました。

<公認会計士科研究室の存在>

私は研究室があるからこそ、合格できたと言っても過言ではありません。

研究室の良さは大きく3点あります。

- ①：勉強機が与えられ安定して勉強できる環境。
- ②：競争相手がいる。
- ③：研究室の先輩が優しい。時には、適切なアドバイスや指導をしてくれる。

<最後に>

私が公認会計士試験に合格してみて実感したことは、やはり公認会計士試験は非常に難しいです。

しかし、絶対に合格できない試験ではありません。でも、私なりに合格するには条件が必要です。

- ①：誰よりも努力すること。
- ②：気合い気合い気合い。
- ③：目指すからには様々なものを犠牲にするという覚悟が必要なこと。

要するに自分自身の戦いです。たくさんの誘惑に勝ち抜けていけば合格という文字が付いてきます。

日大法学部での現役合格は非常に珍しく、また自分自身としては大変うれしいものです。

みなさんも、ぜひこの栄冠を勝ち取ってください。また、日大魂をみせつけてやりましょう！

そして合格した暁には、私と飲みに行きましょう！！そのような日を楽しみに待っています。